

お母さん

小川未明

青空文庫

しょう 正ちゃんは、目をさますと、もう朝であさでした。窓が明るくなって、どこかで雨戸を繰る音がしました。けれどそばに寝ている兄さんにも、目をさまさなければ、またお母さんもお起きなさらぬようです。

「きようは、日曜日なんだ。」

いつもなら、みんなが、こうゆつくりしてはいられぬのでした。正ちゃんは、いつも日曜は、朝がおそいを知っていました。それをうつかりして、いつもと同じような気になって、三人で、八時から釣りにいく約束をしたのでした。かならず、七時半に迎えにくると勇ちゃんがいったから、もう起きて、ご飯を食べなければなりませんでした。「お母さんを起こそうかしらん。」と、考えていましたが、まず、兄さんにいつてみよう

と、
「兄ちゃん、まだ起きない？」と、声をかけました。小さな声で、いったのだけれど、兄さんは、目をふさいでいても、いつも、いまごろ起きる習慣がついているので、半分さめていたとみえて、

「正二、きようは日曜日だろう。お母さんをゆつくり寝かしておいてあげな。音をた

てると、お母さんが、目をおさましになるよ。」といました。

なるほど、そうだった。いつも早く起きてくださるのだから、きょうは、お母さんをゆつくり寝かしてあげなければならぬと、正二にも思われたのでした。

「ああ、あんな約束をしなければよかった。これから、勇ちちゃんの家へ行って、断つてようかしらん。」と、正ちゃんは、気がもめてなりませんでした。

「僕、釣りにいく約束をしたのだよ。」

「だれとかい。」と、兄の敏夫さんは、こちらへ向き直って聞きました。

「茂ちちゃんと、勇ちちゃんと三人で、八時にいくつて。」と、正ちゃんが、いました。

「いま何時だろうな。」と、敏夫さんが、いました。

「もう六時過ぎだろう。」

「だけど、起こしては、お母さんに悪いじゃないか。」

「僕、勇ちちゃんのところへ行って、断つてくるよ。」

「もう、すこし待ってみな。」

「だって、勇ちちゃんは、七時半にくるといったもの。」

正ちゃんは、独り、起きて、洋服に着かえると、二階から下りてきました。

すると、お母さんかあの姿すがたが見えませんでした。おへやは、もうちやんときれいにかたづいていました。

「おや、お母さんかあは？」

正ちゃんしょうちゃんは、お勝手かってもとへいつてみました。ガスに火ひがついて、お汁しるのなべが、かかっていた。そこにもお母さんかあは、いらつしやいません。

「お母さんかあは、どこへいったらうな。」

このとき、お母さんかあは、外そとから、お豆腐とうふをいれた入れ物いものを持って、帰かえっていらつしやいました。

「すぐに、ご飯はんにしてあげますよ。」と、おつしやいました。

「うん、お母さんかあは、早いね。」と、正ちゃんしょうちゃんが、いいました。

「だって、あんたが、釣つりにいくんでしよう。」と、お母さんかあはおつしやいました。

「どうして、わかつたの？ 勇ちゃんいさむが、迎むかえにきた？」と、正ちゃんしょうちゃんは、驚おどろいて、ききました。

「いいえ、だれもきませんよ。お母さんかあには、なんでも、あんたのすることはわかるのです。」

「お母^{かあ}さんは、えらいなあ。」と、正^{しょう}ちゃんは、お母^{かあ}さんの顔^{かお}を見上^{みあ}げました。

「えらいでしょう。だから、うそをいっても、お母^{かあ}さんには、すぐわかりますよ。」

「僕^{ぼく}、うそなんかいわないよ。」

「だから、お母^{かあ}さんは、こうして、正^{しょう}ちゃんの思^{おも}うようにしてあげるのです。」

まだ年^{とし}のいかない正^{しょう}ちゃんは、おとなしくご飯^{はん}をいただいていました。

お母^{かあ}さんは、昨夜^{さくや}、物置^{ものおき}の前に、釣りざおが一本^{ぽんた}立てかけてあり、その下^{した}に、小^{ちい}さなバケツとみみず箱^{ばこ}が、置^おいてあるのをごらんになって、

「おお、ちゃんと用意^{ようい}がしてあること。」と、なんとなくいじらしいような気^きがして、お笑^{わら}いになったのでした。それで、きようは日曜^{にちようび}日^びだけれど、早^{はや}く出^でかけるものと思^{おも}って、いつもと同じ^{おな}ように、お起^おきなされたのであります。

正^{しょう}ちゃんは、日^ひごろ、やさしい、いいお母^{かあ}さんだと思^{おも}っています。しかし、いつになつたら、このお母^{かあ}さんの愛^{あい}が、ほんとうにもつと深^{ふか}くわかるでありますようか。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 12」講談社

1977（昭和52）年10月10日第1刷発行

1982（昭和57）年9月10日第5刷発行

底本の親本：「日本の子供」文昭社

1938（昭和13）年12月

初出：「教育行童話研究」

1938（昭和13）年5月

※表題は底本では、「お母《かあ》さん」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2016年9月21日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られ

ました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

お母さん

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>